

水質汚濁に係る農薬登録基準として 環境大臣の定める基準の設定に関する資料

資料目次

	農薬名	基準設定	ページ
1	インピルフルキサム	新規	1
2	テトラコナゾール	既登録	6
3	フェニトロチオン (MEP)	既登録	10

平成31年1月16日

環境省水・大気環境局土壌環境課農薬環境管理室

評 価 農 薬 基 準 値 一 覧

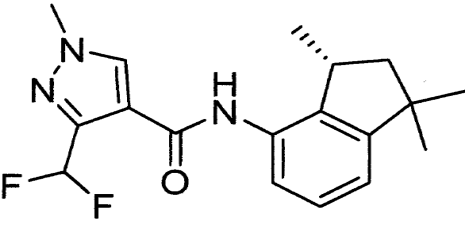
農薬名	基準値(mg/L)
1 インピルフルキサム	0.1
2 テトラコナゾール	0.01
3 フェニトロチオン (MEP)	0.013

水質汚濁に係る農薬登録基準の設定に関する資料

インピルフルキサム

I. 評価対象農薬の概要

1. 物質概要

化学名 (IUPAC)	3-(ジフルオロメチル)-N-[(R)-2,3-ジヒドロ-1,1,3-トリメチル-1H-インデン-4-イル]-1-メチルピラゾール-4-カルボキサミド				
分子式	C ₁₈ H ₂₁ F ₂ N ₃ O	分子量	333.4	CAS 登録番号 (CAS RN®)	1352994-67-2
構造式					

2. 作用機構等

インピルフルキサムは、コハク酸脱水素酵素阻害剤 (SDHI 剤) に属する殺菌剤であり、その作用機構はミトコンドリア内膜に存在するコハク酸脱水素酵素 (複合体 II) からユビキノンへの電子伝達を阻害することにより、菌のエネルギー生産を低下させ、生育を阻害する。

本邦では未登録である。

製剤は粒剤及び水和剤が、適用農作物等は稲、麦、果樹、野菜、いも、豆、花き等として、登録申請されている。

3. 各種物性等

外観・臭気	ベージュ色顆粒、無臭	土壌吸着係数	$K_{F^{ads}_{OC}} = 500 - 890$ (20°C)
融点	104°C	オクタノール ／水分配係数	$\log Pow = 3.65$ (25°C、pH7.1-7.3)
沸点	約 237°Cで分解のため測定不能	生物濃縮性	$BCF_{ss} = 29$ (0.6µg/L)、 30 (0.2µg/L)
蒸気圧	3.8×10^{-8} Pa (20°C) 1.2×10^{-7} Pa (25°C)	密度	1.2 g/cm ³ (20°C)
加水分解性	半減期 1年以上 (25°C ; pH4、7、9)	水溶解度	16.4 mg/L (20°C、pH5.5-5.8)
水中光分解性	半減期 3,465 日 (滅菌緩衝液、pH6.9、25°C、61.3 W/m ² (290-400 nm)、497 W/m ² (290-800 nm)) 87.7 日 (東京春季太陽光換算 549 日) (滅菌自然水、pH7.5、25°C、48.9 W/m ² (300-400 nm)、402 W/m ² (300-800 nm)) 35.7 日 (東京春季太陽光換算 223 日) (滅菌自然水、pH7.5、25°C、48.9W/m ² (300-400 nm)、402 W/m ² (300-800 nm))		

II. 安全性評価

一日摂取許容量 (ADI)	0.06 mg/kg 体重/日
<p>食品安全委員会は、平成 30 年 10 月 23 日付けで、インピルフルキサムの ADI を 0.06 mg/kg 体重/日と設定する食品健康影響評価の結果を厚生労働省に通知した。</p> <p>なお、この値は各試験で得られた無毒性量のうち最小値 6 mg/kg 体重/日を安全係数 100 で除して設定された。</p>	

Ⅲ. 水質汚濁予測濃度（水濁 PEC）

1. 製剤の種類及び適用農作物等

申請者より提出された申請資料によれば、本農薬は製剤として粒剤及び水和剤が、適用農作物等は稲、麦、果樹、野菜、いも、豆、花き等として登録申請されている。

2. 水濁 PEC の算出

(1) 水田使用時の PEC（第 1 段階）

水田使用時において、PEC が最も高くなる使用方法（下表左欄）について、第 1 段階の PEC を算出する。算出に当たっては、農薬取締法テストガイドラインに準拠して下表右欄のパラメーターを用いた。

PEC 算出に関する使用方法		各パラメーターの値	
適用農作物等	稲 (育苗箱)	I : 単回・単位面積当たりの有効成分量 (有効成分 g /ha) (左欄の最大使用量に、有効成分濃度を乗じた上で、単位を調整した値 (製剤の密度は 1 g/mL として算出))	300
剤 型	3%粒剤	N_{app} : 総使用回数 (回)	1
当該剤の単回・単位面積当たり最大使用量	50 g/箱 (10a 当たり 20 箱使用)	A_p : 農薬使用面積 (ha)	50
地上防除/航空防除の別	地上防除		
使用方法	育苗箱の上から 均一に散布		
総使用回数	1 回		

(2) 非水田使用時の水濁 PEC (第1段階)

非水田使用時において、PECが最も高くなる使用方法(下表左欄)について、第1段階のPECを算出する。算出に当たっては、農薬取締法テストガイドラインに準拠して下表右欄のパラメーターを用いた。

PEC算出に関する使用方法		各パラメーターの値	
適用農作物等	果樹	I : 単回・単位面積当たりの有効成分量 (有効成分 g/ha) (左欄の最大使用量に、有効成分濃度を乗じた上で、単位を調整した値 (製剤の密度は 1 g/mL として算出))	647.5
剤型	37%水和剤	N_{app} : 総使用回数 (回)	3
当該剤の単回・単位面積当たり最大使用量 ※算出値	175 mL/10a (4,000 倍希釈した薬液を 10a 当たり 700 L 使用)	D_{river} : 河川ドリフト率 (%)	5.8
		Z_{river} : 河川ドリフト面積 (ha)	0.11
地上防除/航空防除の別	地上防除	R_u : 畑地からの農薬流出率 (%)	0.02
使用方法	散布	A_p : 農薬使用面積 (ha)	37.5
総使用回数	3 回	F_u : 施用方法による農薬流出補正係数	1

(3) 水濁 PEC 算出結果

使用場面	水濁 PEC (mg/L)
水田使用時(第1段階)	0.003993...
非水田使用時(第1段階)	0.000033...
うち地表流出寄与分	0.000029...
うち河川ドリフト寄与分	0.000003...
合計 ¹⁾	0.004026... ≒ <u>0.0040 (mg/L)</u>

¹⁾ 水濁 PEC の値は有効数字 2 桁とし、3 桁目を四捨五入して算出した。

IV. 総合評価

1. 水質汚濁に係る登録基準値

登録基準値	0.1 mg/L
以下の算出式により登録基準値を算出した。 ¹⁾	
0.06 (mg/kg 体重/日) ADI	× 53.3 (kg) × 0.1 / 2 (L/人/日) = 0.15…(mg/L) 体重 10%配分 飲料水摂取量

¹⁾ 登録基準値は、体重を 53.3kg、飲用水を 1 日 2L、有効数字は 1 桁（ADI の有効数字桁数）とし、2 桁目を切り捨てて算出した。

<参考> 水質に関する基準値等

(旧)水質汚濁に係る農薬登録保留基準 ¹⁾	なし
水質要監視項目 ²⁾	なし
水質管理目標設定項目 ³⁾	なし
ゴルフ場指導指針 ⁴⁾	なし
WHO 飲料水水質ガイドライン ⁵⁾	なし

¹⁾ 平成 17 年 8 月 3 日改正前の「農薬取締法第 3 条第 1 項第 4 号から第 7 号までに掲げる場合に該当するかどうかの基準を定める等の件」（昭和 46 年 3 月 2 日農林省告示 346 号）第 4 号に基づき設定された基準値。

²⁾ 水質汚濁に係る要監視項目として、直ちに環境基準とはせず、引き続き知見の集積に努めるべきとされた物質に係る指針値。

³⁾ 水道法に基づく水質基準とするには至らないが、水道水質管理上留意すべき項目として設定された物質に係る目標値。

⁴⁾ 「ゴルフ場で使用される農薬による水質汚濁の防止及び水産動植物被害の防止に係る指導指針の制定について」（平成 29 年 3 月 9 日付け環水大土第 1703091 号環境省水・大気環境局長通知）において設定された水濁指針値。

⁵⁾ Guidelines for drinking-water quality, fourth edition

2. リスク評価

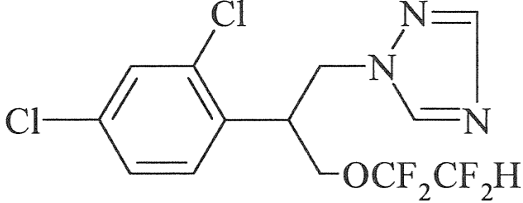
水濁 PEC は 0.0040 mg/L であり、登録基準値 0.1 mg/L を超えないことを確認した。

水質汚濁に係る農薬登録基準の設定に関する資料

テトラコナゾール

I. 評価対象農薬の概要

1. 物質概要

化学名 (IUPAC)	(R S) - 2 - (2, 4 - ジクロロフェニル) - 3 - (1 H - 1, 2, 4 - トリアゾール - 1 - イル) プロピル 1, 1, 2, 2 - テトラフルオロエチル エーテル				
分子式	C ₁₃ H ₁₁ Cl ₂ F ₄ N ₃ O	分子量	372.1	CAS 登録番号 (CAS RN®)	112281-77-3
構造式					

2. 作用機構等

テトラコナゾールは、トリアゾール系殺菌剤であり、その作用機構は菌類の細胞膜成分であるエルゴステロール合成を阻害するものである。

本邦での初回登録は 1998 年である。

製剤は、水和剤、乳剤及び液剤が、適用農作物等は、果樹、野菜、花き、樹木、芝等がある。

原体の輸入量は、7.5 t (平成 26 年度*)、8.0 t (平成 27 年度*)、7.8 t (平成 28 年度*) であった。

※年度は農業年度 (前年 10 月～当該年 9 月)、出典：農薬要覧・2017・((一社) 日本植物防疫協会)

3. 各種物性等

外観・臭気	無色粘稠液体、無臭	土壌吸着係数	$K_{oc} = 290 - 1,300$ (25°C)
融点	6°C (流動点)	オクタノール /水分配係数	$\log Pow = 3.53$ (23°C)
沸点	235~240°Cで分解のため 測定不能	生物濃縮性	$BCF_{ss} = 33$
蒸気圧	1.8×10^{-4} Pa (20°C)	密度	1.5 g/cm ³ (20°C)
加水分解性	30 日間安定 (25°C : pH5、 7、9) 120 時間安定 (50°C : pH5、7、9)	水溶解度	190 mg/L (20°C) 212 mg/L (30°C)
水中光分解性	半減期 15 日 (東京春季太陽光換算 48 日) (自然水、pH7.1、25°C、24.8 W/m ² 、310-400 nm) 304 日 (東京春季太陽光換算 957 日) (滅菌蒸留水、25°C、24.8 W/m ² 、310-400 nm) 8.93 日 (東京春季太陽光換算 66.1 日) (滅菌緩衝液、pH7、25°C、732 W/m ² 、290-800 nm)		
pKa	0.5~0.8 (20°C)		

II. 安全性評価

一日摂取許容量 (ADI)	0.004 mg/kg 体重/日
<p>食品安全委員会は、平成 30 年 3 月 6 日付けで、テトラコナゾールの ADI を 0.004 mg/kg 体重/日と設定する食品健康影響評価の結果を厚生労働省に通知した。</p> <p>なお、この値は各試験で得られた無毒性量のうち最小値 0.4 mg/kg 体重/日を安全係数 100 で除して設定された。</p>	

Ⅲ. 水質汚濁予測濃度（水濁 PEC）

1. 製剤の種類及び適用農作物等

農薬登録情報提供システム（（独）農林水産消費安全技術センター）によれば、本農薬は製剤として水和剤、乳剤及び液剤があり、適用農作物等は果樹、野菜、花き、樹木、芝等がある。

2. 水濁 PEC の算出

(1) 非水田使用時の水濁 PEC（第1段階）

非水田使用時において、PEC が最も高くなる使用方法（下表左欄）について、第1段階の PEC を算出する。算出に当たっては、農薬取締法テストガイドラインに準拠して下表右欄のパラメーターを用いた。

PEC 算出に関する使用方法		各パラメーターの値	
適用農作物等	芝	I : 単回・単位面積当たりの有効成分量 (有効成分 g/ha) (左欄の最大使用量に、有効成分濃度を乗じた上で、単位を調整した値(製剤の密度は 1 g/mL として算出))	1,250
剤 型	25%乳剤		
当該剤の単回・単位面積当たり最大使用量 ※算出値	500 mL/10a (2000 倍希釈した薬液を 10a 当たり 1000L 使用)	N_{app} : 総使用回数 (回)	6
		D_{river} : 河川ドリフト率 (%)	0.2
		Z_{river} : 河川ドリフト面積 (ha)	0.11
地上防除/航空防除の別	地上防除	R_u : 畑地からの農薬流出率 (%)	0.02
使用方法	散布	A_p : 農薬使用面積 (ha)	37.5
総使用回数	6 回	F_u : 施用方法による農薬流出補正係数	1

(2) 水濁 PEC 算出結果

使用場面	水濁 PEC (mg/L)
水田使用時	適用なし
非水田使用時(第1段階)	0.0001027...
うち地表流出寄与分	0.0001023...
うち河川ドリフト寄与分	0.0000004...
合 計 ¹⁾	0.0001027... ÷ 0.00010 (mg/L)

¹⁾ 水濁 PEC の値は有効数字 2 桁とし、3 桁目を四捨五入して算出した。

IV. 総合評価

1. 水質汚濁に係る登録基準値

登録基準値	0.01 mg/L
以下の算出式により登録基準値を算出した。 ¹⁾	
0.004 (mg/kg 体重/日) ADI	× 53.3 (kg) × 0.1 / 2 (L/人/日) = 0.010…(mg/L) 体重 10%配分 飲料水摂取量

¹⁾ 登録基準値は、体重を 53.3kg、飲用水を 1日 2L、有効数字は 1桁（ADI の有効数字桁数）とし、2桁目を切り捨てて算出した。

<参考> 水質に関する基準値等

(旧)水質汚濁に係る農薬登録保留基準 ¹⁾	なし
水質要監視項目 ²⁾	なし
水質管理目標設定項目 ³⁾	なし
ゴルフ場指導指針 ⁴⁾	0.1 mg/L
WHO飲料水水質ガイドライン ⁵⁾	なし

¹⁾ 平成 17 年 8 月 3 日改正前の「農薬取締法第 3 条第 1 項第 4 号から第 7 号までに掲げる場合に該当するかどうかの基準を定める等の件」（昭和 46 年 3 月 2 日農林省告示 346 号）第 4 号に基づき設定された基準値。

²⁾ 水質汚濁に係る要監視項目として、直ちに環境基準とはせず、引き続き知見の集積に努めるべきとされた物質に係る指針値。

³⁾ 水道法に基づく水質基準とするには至らないが、水道水質管理上留意すべき項目として設定された物質に係る目標値。

⁴⁾ 「ゴルフ場で使用される農薬による水質汚濁の防止及び水産動植物被害の防止に係る指導指針の制定について」（平成 29 年 3 月 9 日付け環水大土第 1703091 号環境省水・大気環境局長通知）において設定された指針値。

⁵⁾ Guidelines for drinking-water quality, fourth edition

2. リスク評価

水濁 PEC は 0.00010 mg/L であり、登録基準値 0.01 mg/L を超えないことを確認した。

(参考) 食品経由の農薬推定一日摂取量と対 ADI 比

農薬推定一日摂取量 (mg/人/日)	対 ADI 比 (%)
0.0464	21.1

出典:平成 30 年 10 月 5 日開催の薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会報告

水質汚濁に係る登録基準の設定に関する資料

フェニトロチオン (MEP)

I. 評価対象農薬の概要

1. 物質概要

化学名 (IUPAC)	O,O-ジメチル O-4-ニトロ-m-トリル ホスホロチオアート				
分子式	C ₉ H ₁₂ NO ₅ PS	分子量	277.2	CAS 登録番号 (CAS RN [®])	122-14-5
構造式					

2. 作用機構等

フェニトロチオンは、有機リン系の殺虫剤であり、昆虫体内でオキソン体となり、コリンエステラーゼと結合することで酵素活性を低下させ、正常な神経伝達機能を阻害することにより殺虫効果を示すものと考えられている。

本邦での初回登録は1961年である。

製剤は粉剤、粒剤、粉粒剤、水和剤、乳剤、油剤、エアゾル剤、マイクロカプセル剤が、適用農作物等は稲、麦、果樹、野菜、いも、豆、飼料作物、花き、樹木、芝等がある。

原体の国内生産量は、1,710.5 t (平成 27 年度*)、1,340.0 t (平成 28 年度*)であった。

※年度は農業年度 (前年 10 月～当該年 9 月)、出典：農業要覧-2017- ((一社) 日本植物防疫協会)

3. 各種物性等

外観・臭気	淡黄色、澄明の液（非粘性） わずかに特異なおい	土壌吸着係数	$K_{r^{ads}_{oc}} = 820 - 1,900$ (25°C)
融点	常温で液体	オクタノール ／水分配係数	$\log Pow = 3.43$ (20°C)
沸点	約 210°C 付近から分解 （窒素雰囲気下）	生物濃縮性	—
蒸気圧	$1.6 \times 10^{-3} Pa$ (25°C)	密度	$1.3 g/cm^3$ (25°C)
加水分解性	半減期 620 日 (15°C、pH5.0) 530 日 (15°C、pH7.1) 210 日 (15°C、pH9.0) 191–200 日 (25°C、pH5) 180–186 日 (25°C、pH7) 100–101 日 (25°C、pH9) 62 日 (30°C、pH5.0) 57 日 (30°C、pH7.1) 18 日 (30°C、pH9.0) 7.3 日 (45°C、pH5.0) 7.3 日 (45°C、pH7.1) 3.8 日 (45°C、pH9.0)	水溶解度	19.0 mg/L (20°C)
水中光分解性	半減期 0.6–1.0 日（東京春季太陽光換算 0.7–1.1 日） （滅菌蒸留水、pH5.9、平均 442.3 W/m ² 、自然太陽光） 1.5 日（東京春季太陽光換算 1.7 日） （緩衝液、pH3.0、平均 442.3 W/m ² 、自然太陽光） 1.0 日（東京春季太陽光換算 1.1 日） （緩衝液、pH7.0、平均 442.3 W/m ² 、自然太陽光） 0.9 日（東京春季太陽光換算 1.0 日） （緩衝液、pH9.0、平均 442.3 W/m ² 、自然太陽光） 1.1 日（東京春季太陽光換算 1.3 日） （自然水（河川水）、pH7.4、平均 442.3 W/m ² 、自然太陽光） 0.9 日（東京春季太陽光換算 1.0 日） （自然水（海水）、pH7.8、平均 442.3 W/m ² 、自然太陽光） 3.5 日（東京春季太陽光換算 約 2 日） （酢酸緩衝液、pH5.0、25°C、約 30 W/m ² 、310–400 nm）		

II. 安全性評価

一日摂取許容量 (ADI)	0.0049 mg/kg 体重/日
<p>食品安全委員会は、平成29年8月22日付けで、フェニトロチオンのADIを0.0049 mg/kg 体重/日と設定する食品健康影響評価の結果を厚生労働省に通知した。</p> <p>なお、この値は各試験で得られた無毒性量のうち最小値 0.49 mg/kg 体重/日を安全係数100で除して設定された。</p>	

Ⅲ. 水質汚濁予測濃度 (水濁 PEC)

1. 製剤の種類及び適用農作物等

農薬登録情報提供システム ((独) 農林水産消費安全技術センター) によれば、本農薬は製剤として粉剤、粒剤、粉粒剤、水和剤、乳剤、油剤、エアゾル剤、マイクロカプセル剤があり、適用農作物等は稲、麦、果樹、野菜、いも、豆、飼料作物、花き、樹木、芝等がある。

2. 水濁 PEC の算出

(1) 水田使用時の水濁 PEC (第2段階)

水田使用時において、PEC が最も高くなる使用方法 (下表左欄) について、第2段階の PEC を算出する。算出に当たっては、農薬取締法テストガイドラインに準拠して下表右欄のパラメーターを用いた。

PEC 算出に関する使用方法		各パラメーターの値	
適用農作物等	① 稲 (育苗箱) ② 稲	I : 単回・単位面積当たりの有効成分量 (有効成分 g/ha) (左欄の最大使用量に、有効成分濃度を乗じた上で、単位を調整した値 (製剤の密度は 1 g/mL として算出))	① 50 ② 1,200
剤 型	① 50%乳剤 ② 3%粉剤	N_{app} : 総使用回数 (回)	① 1 ② 2
当該剤の単回・単位面積当たり最大使用量 ※①は算出値	① 0.5mL/箱 (1,000 倍希釈した薬液を育苗箱 1 箱当たり 500 mL 使用、10a 当たり 20 箱使用) ② 4,000 g/10a	ドリフト量	①考慮せず ②考慮
		A_p : 農薬使用面積 (ha)	50
地上防除/航空防除の別	地上防除	f_p : 施用方法による農薬流出補正係数 (-)	① 0.2 ② 1
使用方法	① 育苗箱の上から均一に散布 ② 散布	止水期間 (day)	① 0 ② 0
総使用回数	① 1 回 ② 2 回	$K_{F^{ads}_{oc}}$: 土壌吸着係数	1298.5
水質汚濁性試験成績 (mg/L)			
0 日		① 0.336 ② 1.240	
1 日		① 0.050 ② 0.206	
2 日		① 0.005 ② 0.078	
3 日		① 0.003 ② 0.023	
4 日		① 0.001 ② 0.012	
7 日		① <0.001 ② <0.001	
14 日		① <0.001 ② <0.001	

(2) 非水田使用時の水濁 PEC (第1段階)

非水田使用時において、PECが最も高くなる使用方法(下表左欄)について、第1段階のPECを算出する。算出に当たっては、農薬取締法テストガイドラインに準拠して下表右欄のパラメーターを用いた。

PEC算出に関する使用方法		各パラメーターの値	
適用農作物等	樹木	I : 単回・単位面積当たりの有効成分量 (有効成分 g/ha) (左欄の最大使用量に、有効成分濃度を乗じた上で、単位を調整した値 (製剤の密度は 1 g/mL として算出))	56,000
剤型	80%乳剤	N_{app} : 総使用回数 (回)	6
当該剤の単回・単位面積当たり最大使用量 ※算出値	7,000 mL/10a (100倍希釈した薬液を10a当たり700L使用)	D_{river} : 河川ドリフト率 (%)	5.8
		Z_{river} : 河川ドリフト面積 (ha)	0.11
地上防除/航空防除の別	地上防除	R_u : 畑地からの農薬流出率 (%)	0.02
使用方法	散布	A_p : 農薬使用面積 (ha)	37.5
総使用回数	6回	F_u : 施用方法による農薬流出補正係数	1

(3) 水濁 PEC 算出結果

使用場面	水濁 PEC (mg/L)
水田使用時(第2段階)	0.000855...
非水田使用時(第1段階)	0.005154...
うち地表流出寄与分	0.004583...
うち河川ドリフト寄与分	0.000570...
合計 ¹⁾	0.006009... ≒ <u>0.0060 (mg/L)</u>

¹⁾ 水濁 PEC の値は有効数字2桁とし、3桁目を四捨五入して算出した。

IV. 総合評価

1. 水質汚濁に係る登録基準値

登録基準値	0.013 mg/L
以下の算出式により登録基準値を算出した。 ¹⁾	
0.0049 (mg/kg 体重/日) ADI	× 53.3 (kg) × 0.1 / 2 (L/人/日) = 0.0130…(mg/L) 体重 10%配分 飲料水摂取量

¹⁾ 登録基準値は、体重を 53.3kg、飲用水を 1 日 2L、有効数字は 2 桁（ADI の有効数字桁数）とし、3 桁目を切り捨てて算出した。

<参考> 水質に関する基準値等

(旧)水質汚濁に係る農薬登録保留基準 ¹⁾	なし
水質要監視項目 ²⁾	0.003 mg/L
水質管理目標設定項目 ³⁾	0.01 mg/L
ゴルフ場指導指針 ⁴⁾	0.03 mg/L
WHO飲料水水質ガイドライン ⁵⁾	なし

¹⁾ 平成 17 年 8 月 3 日改正前の「農薬取締法第 3 条第 1 項第 4 号から第 7 号までに掲げる場合に該当するかどうかの基準を定める等の件」（昭和 46 年 3 月 2 日農林省告示 346 号）第 4 号に基づき設定された基準値。

²⁾ 水質汚濁に係る要監視項目として、直ちに環境基準とはせず、引き続き知見の集積に努めるべきとされた物質に係る指針値。

³⁾ 水道法に基づく水質基準とするには至らないが、水道水質管理上留意すべき項目として設定された物質に係る目標値（対象農薬）。

⁴⁾ 「ゴルフ場で使用される農薬による水質汚濁の防止及び水産動植物被害の防止に係る指導指針の制定について」（平成 29 年 3 月 9 日付け環水大土第 1703091 号環境省水・大気環境局長通知）において設定された水濁指針値。

⁵⁾ Guidelines for drinking-water quality, fourth edition

2. リスク評価

水濁 PEC は 0.0060 mg/L であり、登録基準値 0.013 mg/L を超えないことを確認した。

(参考) 食品経由の農薬推定一日摂取量と対 ADI 比

農薬推定一日摂取量 (mg/人/日)	対 ADI 比 (%)
0.087	32.2

出典:平成 30 年 10 月 5 日開催の薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会資料